

団体名	(公財)浜松国際交流協会	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	ミックスルーツが地域を変える！様々なルーツを持つ若者たちによる文化創造事業 78か国の浜松市民が大集合！？～未来はみんなで作る！～		
	事業費総額	1,400千円	意識啓発・地域づくり

事業のポイント

- ◇外国にルーツを持ち、浜松で育った若者たちの「浜松に住んでいる全ての国籍の人と出たい！」という思いをきっかけに企画運営したイベント。
- ◇当日会場に集まった28ヶ国約230人の浜松市民らが自己紹介ワークショップと手作り楽器ワークショップを楽しみ、浜松の多様性を体感した。
- ◇企画案や会場配布のチラシ作成、当日の司会を若者らが担当した。
- ◇外国人支援や外国人自身の自助的なイベントではなく、それぞれの多様性を生かすというメッセージを伝えるイベント。

事業の背景・目的

- ◇背景：2013年度に「浜松市多文化共生都市ビジョン」において多様性を活かした文化の創造が施策に位置付けられたこともあり、文化・芸術活動を通じて外国人市民が地域のまちづくりに参加し発信するきっかけとしてこのイベントを企画した。
- ◇目的：日本で生まれ育った外国にルーツのある若者たちが、大学生や社会人としてまちづくりに積極的に携わっている姿を日本社会へ広く発信する。さらに、このイベントを経て、若者たちが自身の持つ力に気づき、自らが次世代を担っていく存在だという認識を持ってもらう。

事業の概要

(1) 企画・準備・事業実施

企画メンバーは外国にルーツを持つ若者4名（ブラジル、フィリピン、インドネシア）で構成。イベント当日に集まった多国籍の参加者で、一つの作品をつくりあげることが目標に企画を練った。

自己紹介ワークショップでは、参加者に自分の国のあいさつと名前を記入した紙を首から提げてもらうという案を考えたところ、イベント開始時間前からすでに参加者同士で話しかけている姿が会場のあちこちから見られ、出会いを楽しんでいる様子がうかがえた。「非言語コミュニケーション」として企画した打楽器ワークショップでは、浜松で音楽活動をしている方を招き、リズムパーカッションを通して参加者がひとつの音楽をつくりあげる過程を盛り上げた。イベントの最後に若者が参加者の国名を順番に読み上げたところ、参加者から自然にその国出身の方々に向けて拍手が沸き起こって会場全体が和やかな雰囲気になり、28ヶ国230人と出会えたことに感謝して幕を閉じた。

(2) イベント内容

【日時】2013（平成25）年10月12日（土）18:00～20:00

【会場】クリエート浜松2階ホール（浜松市中区早馬町2-1）

【内容】①自己紹介ワークショップ ②打楽器ワークショップ

③ブラジル・フィリピン・韓国の文化紹介ブースの設置

【参加人数】28ヶ国230名

（アメリカ、イギリス、イスラエル、イラン、インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、キューバ、コロンビア、スペイン、タイ、台湾、中国、ドイツ、日本、ニュージーランド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ペルー、ミャンマー、メキシコ、モンゴル、ラオス）



事業実施における工夫点・事業の成果等

(1) 工夫点

- アルバイトや大学生、仕事やプライベートで忙しい若者たちが打ち合わせに参加しやすいように、メールや facebook のメッセージ機能を利用して頻りにやりとりをすることで、全員が集まらなくても進捗状況を共有し企画が滞らないように心掛けた。
- 外国にルーツを持つ自分たちが自らの多様性を活かしたイベントを企画運営していくという自覚を持ちそれを市内外に発信してもらうため、企画メンバー2名が出席して記者発表を行い、静岡新聞（10月8日、10日）、朝日新聞（10月11日）、中日新聞（10月13日）等に掲載された。



当日の司会をした若者ら

(2) 成果等

- 一過性のイベントではなく、日常的な交流や意見交換の場を設ける試みとして、COLORS というグループを立ち上げ、月1回のペースで集まりを開き、「ルーツと自分のストーリーを語ろう」や「国際結婚、文化・国籍の異なる彼氏彼女について」など毎回色々なテーマを設定して自由に意見を出し合える場をつくっている。
- 打楽器ワークショップに協力してもらった市民有志の音楽バンドプロジェクトがこのイベントをきっかけに活動を始め、音楽のまちづくりにも貢献した。
- 事業実施に際し、浜松市の在住外国人 78 カ国のうち 40 カ国の人々と連絡が取れ、参加は無理でも、事業の趣旨を理解してもらい、「多様な浜松市民で新しい社会をつくろう」という思いがあることを伝えることができた。

今後の課題・将来に向けての展望等

(1) 今後の課題

- 今回の参加者だけでなく、さらに若い世代も含めた外国にルーツを持つ若者たち同士でつながっていくことが、つながりを創出・継続していくために重要である。
- 外国にルーツを持つ若者は、想いもアイデアもあるが、多忙のためそれを実現するための時間を取りにくい。
- 今回のイベントも、当協会職員らが、打ち合わせのスケジュールと内容の調整やチラシ作成・配布、当日の準備や運営（司会以外）を行うとともに、彼らのモチベーションが下がらないよう配慮する必要があるがあった。



自己紹介ワークショップの様子

(2) 将来に向けて

- 外国にルーツを持つ若者が自身のルーツを活かして活躍できるよう、例えば、彼らの特技を活かした就職につながるなど経済的メリットがあるような事業として展開していくことが理想である。
- 先述の COLORS は、今後は就職をテーマに、外国にルーツを持つ方などで浜松近辺に就職した方をゲストに招いて話し合う会を開く予定である。当協会は、こうしたグループの活動を基盤に、外国にルーツを持つ若者が自分の特性を生かした就職を考えたり、企業に外国にルーツを持つ若者の良さや力を認識したりしてもらえるような就職セミナーなど、小規模でも実質的なメリットのある事業を、若者自身が開催できるように支えていきたい。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 外国にルーツを持つ若者が浜松の特徴を生かしたイベントを主体的に企画運営していく姿を見て、今後の浜松の多文化共生のまちづくりは彼らが担うのだなと感じた。彼らの存在は外国にルーツを持つ子どもたちにとっては目標であり、日本人市民にとっては多文化共生についての意識が変わるきっかけとなり、好循環が生まれると感じた。
- ⇒ 若者は進学や就職、アルバイトや友人との付き合いで忙しく、実際に全員が顔を合わせての打ち合わせは難しい。若者世代は facebook や LINE などのソーシャルネットワーキングサービスをよく利用しているため、若者と事業企画をするときはこれらを活用した方がスムーズにできる。